

重点施策7 市民総参加のスポーツと健康教育の推進

【施策方針】

生涯にわたって、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができるよう、スポーツ・レクリエーション活動の充実を図り、市民が健康で明るく生活できるよう努める。

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

- ① 生涯スポーツの振興
- ② スポーツ活動体制の充実・強化、学校体育との連携
- ③ スポーツ・レクリエーション施設の整備、野外活動の推進

(2) 施策・事業の実施状況

① 生涯スポーツの振興

スポーツに親しむ市民の拡大と継続したスポーツの推進を図り、社会体育を通じて、すべての市民が健康で明るく生活できるよう努めた。

- ・ 市体育協会への助成を通じて、優秀な成績を収めた方の顕彰や、スポーツ大会の開催、全国大会などへの出場者に助成を行うなど、スポーツ活動の振興を図った。
- ・ スポーツ少年団への助成を通じて、交流研修会、体験発表会、ソフトボール及びサッカー大会を開催した。また、大会の参加や開催を促進し、競技力の向上に努めた。
- ・ 生涯にわたってスポーツに親しみ、健康で活力ある地域社会を実現するため、「山本隆弘氏とパナソニックパンサーズによる中学生を対象としたバレーボール教室」を開催した。
- ・ スポーツ推進委員による小学生対象のドッジボール大会を開催するなど、生涯スポーツの普及に努めた。
- ・ 公認スポーツ指導員等の資格取得に対して助成を行うなど、指導者の育成及び確保に努めた。
- ・ 社会体育施設の保守点検を適宜行い、不良箇所の修理を行うことにより、安全で快適なスポーツ、レクリエーション活動の環境整備に努めた。
- ・ 市民スポーツフェスタ 2018 (17 地区公民館、1,107 名参加)、第 39 回八幡浜市クロッケー大会 (15 チーム、52 名参加)、市民健康マラソン (712 名参加)、八幡浜駅伝カーニバル (105 チーム、525 名参加) の開催など、市民が気軽に参加できるスポーツ大会を開催し、市民へのスポーツ、レクリエーションの機会を提供し

た。

② スポーツ活動体制の充実・強化、学校体育との連携

市民のスポーツ活動の場として、学校体育施設を開放し、広くスポーツの健全な普及促進と健康増進を図るとともに、学校体育との協力体制の推進に努めた。

- ・ 学校施設の体育館及びグラウンドの開放を行い、市民へのスポーツ、レクリエーション活動の場を提供した。

③ スポーツ・レクリエーション施設の整備、野外活動の促進

児童生徒の自然とのふれあいの中での豊かな人間性を養う野外活動の展開を図った。

- ・ 第50回八幡浜市歩け歩け大会(183名参加)、やわたはま国際MTBレース2018(2,000名参加)、やわたはまMTB&リレーランチャレンジ(250名参加)などのアウトドアスポーツイベントを開催し、スポーツ交流人口の増加と地域振興を図った。
- ・ マウンテンバイクの貸出し事業を実施するとともに、定期的にマウンテンバイク教室を実施し、競技の普及促進に努めた。
- ・ スポーツセンタープールろ過機の改修とスポーツ振興くじ助成事業を活用して競技用柔道畳を購入した。

【事務事業点検評価委員意見】

- ラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピック等のビッグイベントで盛り上がりを見せる中、生涯スポーツへの関心は非常に高まっている。少子・高齢化が進む中、生涯に渡りスポーツに親しむことができるよう、今後とも継続して推進、振興を図っていただきたい。
- 国体の開催により、充実した施設や従来の学校体育施設、社会体育施設の更なる整備・充実や開放をお願いしたい。
- 少子化により、スポーツ少年団や中学校の部活動が困難になってきているが、学校体育と連携、推進していただきたい。
- 国及び国際レベルの競技である「やわたはま国際MTB」を八幡浜市が開催することは、大変意義深いことである。トップクラスの競技を地元で観戦し、肌で触れることは大変貴重であり、青少年にとっても感動である。

【自己評価】

- 東京オリンピック・パラリンピック、スポーツマスターズなど、年齢問わず誰もが関心となる大規模なスポーツイベントをきっかけとして、社会体育を通じ、スポーツに親しむ市民

の拡大と継続したスポーツの推進を図りたい。また、オリンピック聖火リレーが当市では愛媛県最終走行区間として実施予定であり、成功させることで機運醸成を図っていききたい。

- 市内の社会体育施設及び学校施設の開放を行っており、えひめ国体・えひめ大会の開催に伴い、王子の森スタジアム、市民スポーツセンターの改修工事を実施した。引き続きスポーツに親しむ市民の拡大と継続したスポーツの推進を図るため、市民にとって快適な環境整備に取り組みたい。
- スポーツ少年団活動においては、少子化の影響を受け、単位団及び団員数が減少傾向にあるが、様々なスポーツを通じて学校の垣根を越えた交流事業を通じて、スポーツ少年団活動でしか味わえない活動を維持し、引き続き中学校の部活動においても、その経験を活かしてもらえるよう、下支えするための活動助成を行っていく。
- 毎年国内最高峰のマウンテンバイククロスカンントリー競技大会を開催し、来年は東京オリンピックを控え、次回開催の「やわたはま国際 MTB レース 2020」も多くの外国人選手や有力選手の参加が見込まれ、トップレベルの競技を地元で観戦することができる。また、地域の小・中学生を対象にマウンテンバイクスポーツクラブを設立し、マウンテンバイクの普及活動を行っている。